

# SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール  
岩手県立水沢高等学校  
第9号 2019年10月23日 発行

## 東桜学館高等学校中間発表会

10月16日(水)に山形県立東桜学館高等学校の「未来創造プロジェクト」(課題研究)中間発表会が同校で開催されました。本校から、「卵殻膜による銅イオンの吸着」「緑茶によるメイラード反応の抑制」「生分解性プラスチック」について研究を進めている3つのグループ、6名の生徒が参加し、東桜学館高等学校の生徒とともにポスター発表を行いました。本校以外でこの発表会に参加した学校は、山形県立鶴岡南高等学校(2研究・7名)、東海大学附属高輪台高等学校(2研究・2名)でした。

東桜学館高等学校は、平成29年度に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールに指定され、今年度は第1期の3年目を迎えている高校です。本校とは異なり理数科は設置されていませんが、探究型学習を重視した授業を多く取り入れています。また、同校には中学校もあり、本県の一関第一高等学校と同じような形態の学校となっています。



「プラスチック」班が発表している様子

発表はA、B2つのグループに分かれ、交互に2回ずつの発表を2回繰り返すという方法で行われました。1回の発表時間は4分間、質疑応答4分間、評価1分間という流れで進行了しました。

研究アドバイザーとして、山形大学などから12名の先生方が参加し、専門的な立場から様々なアドバイスを与えていました。

閉会式では、研究アドバイザーを代表して、山形大学理学部教授の栗山恭直先生から講評があり、3つのことを話されました。1つめは、正しく描かれていないグラフが多いという指摘でした。グラフの描き方にはルールがあるのでそれをきちんと守ってほしいということでした。2つめは、定性的な内容が多く、定量化されていないものがあるという指摘でした。3つめは、対照実験をきちんと行わなければならないという指摘でした。このことは、本校の課題研究にも当てはまる課題だと感じました。

閉会式終了後には、交流会が行われ、東桜学館高等学校の生徒と本校などの外部参加校の生徒が少人数に別れて、課題研究の取り組み方などについて、意見交換を行いました。



交流会の様子



「卵殻膜」班が発表している様子



「メイラード反応」班が発表している様子